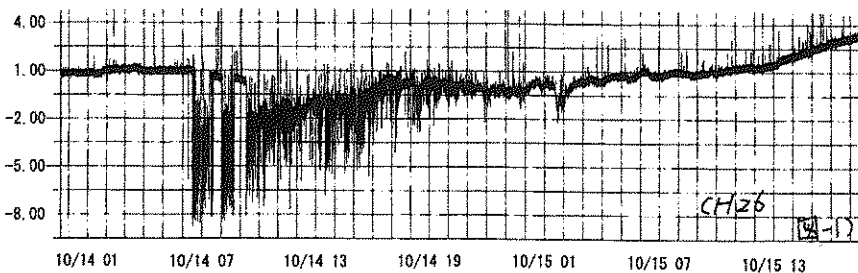


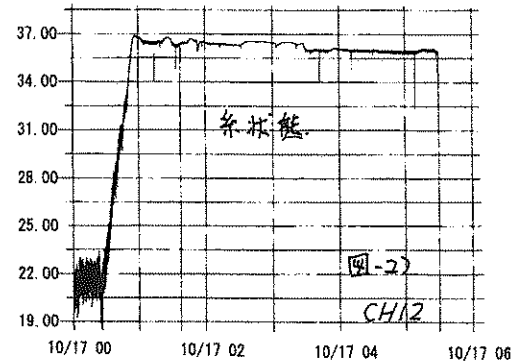
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告
CH26 (10/14)・CH12 (10/17) 特異出現について



上: 10/14 のみ出現のCH26特異



右: 10/17 出現のCH12糸状特異

No.1778(10/17配信)で現在の第6万-前兆群の出現状況更新図を掲載報告致しました。その中で10/14にCH26特異のマークがあります。既に多くの皆様が疑問に思われたことと思います。CH26特異は、8/22中心と9/5に出現し、どちらも極大認識となっています。では、10/14のCH26特異は？とお気づきの筈です。上波形のとおり、10/14のみにCH26に特異状態が出現致しました。しかしCH26のみで、他には顕著変動はなく、CH26特異も弱いものなので極大とは認識できません。そこで考えられるのが、直前特異の可能性です。図-3)右上のAがCH26 10/14特異ですが、右図-4)の第5ステージ前兆群に第4ステージで示唆された4/28当日にCH26-PBFが観測されピークを作っています。右図の① この4/28(CH26)極大に対し、10/14(CH26)特異を直前特異と認識すると、 $T_{map}:T_{pa}=6:1$ 経験則使用で11月17日が算出されます。

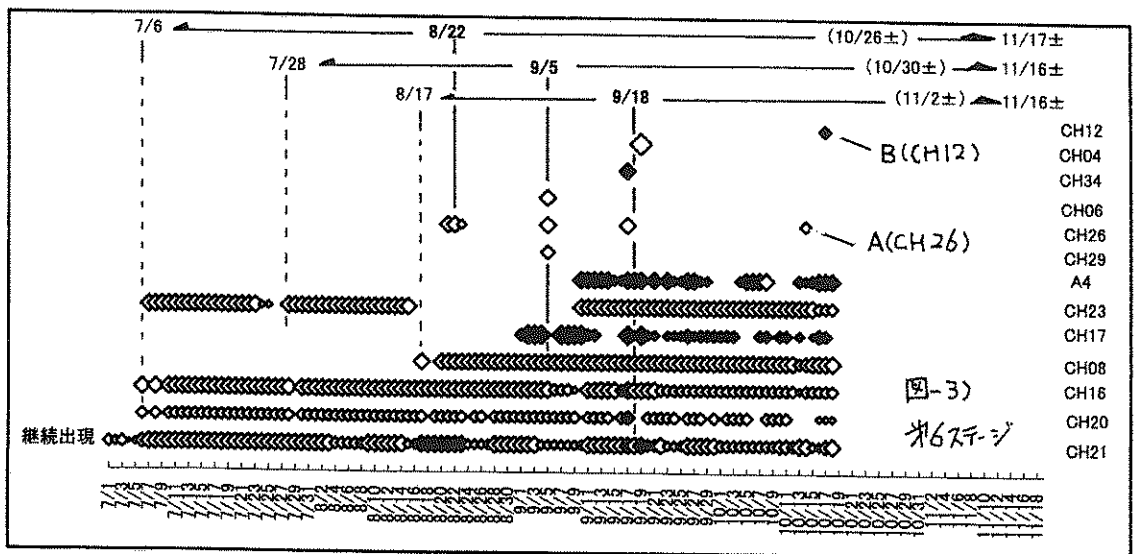


図-3)

第6万-

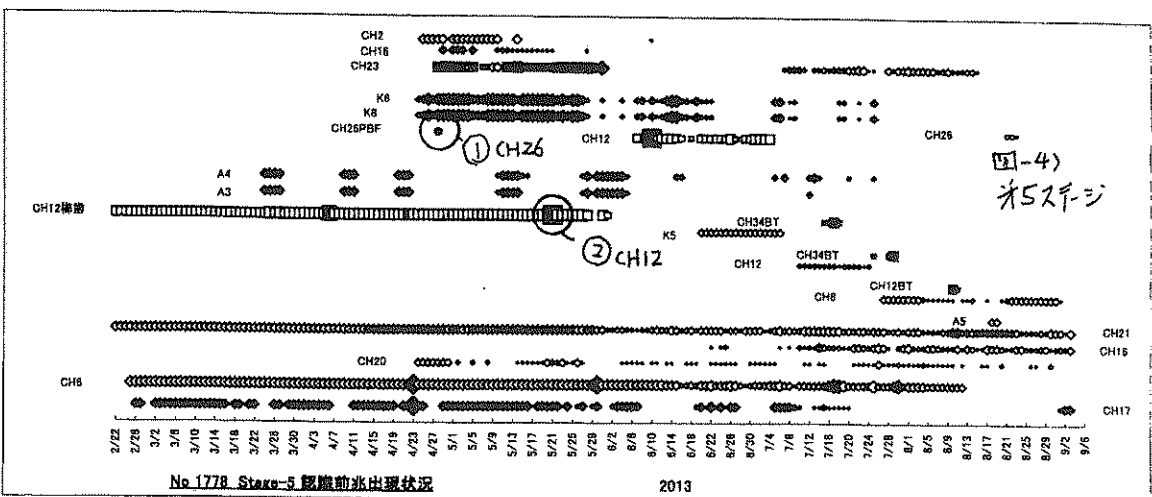


図-4) 第5ステージ

さらに10/17のCH12基線に完全糸状特異の出現観測されました。同様に第5ステージ上の右図中の②のCH12歯状変動最大値ピークに対する直前特異と考えますと、(5/21-CH12極大~10/17-CH12特異)同様の経験則から、11月16日が算出されます。どちらも同じモニター

であることから、直前特異の可能性が否定できません。過去にはこの様な関係出現無し。今後も幾つかのピークが直前特異として出現する可能性も有。本認識が正しいか否か観測を続け検証していきます。C) Copyright 2013 YSBO八ヶ岳南麓天文台